

看護管理学コース 試験問題解答例 2022 第1回

問1 表から読み取れることを述べなさい。

配点:40点 (以下の4視点×10点)

- 気分と性格特性のうち「不安・緊張」「混乱」「抑うつ」「従順な性格特性」の得点は、インシデント・アクシデントの頻度0回に比べて3回以上の方が有意に高い。
- 業務調整能力と職環境のうち、「判断力の不足」「連携不足」の得点は、インシデント・アクシデントの頻度0回より1~2回および3回以上のほうが、有意に高い。
- 業務調整能力と職環境のうち、「過酷な勤務状況」「業務多忙」の得点は、インシデント・アクシデントの頻度0回より3回以上のほうが有意に高い。
- ストレス状況の得点は、インシデント・アクシデントの頻度による差はみられない。

問2 この表が示す調査の結果から、インシデント・アクシデントの発生を防ぐために考えられる対策について、あなたの考察を述べなさい。

配点:60点 (調査結果のまとめ30点、それに対応した対策30点)

- 調査結果より、インシデント・アクシデントの頻度に関連する要因として、睡眠障害や身体的ストレスなどの身体的な要因との関連はみられていない。一方、「気分と性格特性」と「業務調整能力と職環境」との関連が多くみられている。
- 「気分と性格特性」では、「不安・緊張」「混乱」といった、事象にうまく対処できない状況に陥りそうな背景や、「従順な性格特性」といった、言われたことをおかしいと思わない、または思っても指摘しにくいような特性、さらに「抑うつ」という気分との関連が見られている。
- 「業務調整能力と職務環境」では、「情報・知識不足」「判断力不足」といった、当事者の実践能力の未熟な状況や、「連携不足」といったシステム上の問題、さらに「過酷な勤務状況」「業務多忙」といった業務量の問題との関連が見られている。
- 以上のことから、インシデント・アクシデントの発生を防ぐために、まず看護師個人に対して、実践能力が未熟なスタッフの不安・緊張や混乱を招かないよう、研修やオンジョブによる実践上の支援を行うことが重要であると考えられる。特に緊張の強いタイプや混乱しやすいスタッフについては特に丁寧な支援が必要である。
- またシステム上の問題としてあがった連携不足については、患者の移動にともなう連携部分を見直し、情報共有に問題がないかについて見直しをする。また業務量については、無駄な業務を洗い出してスリム化することや、看護助手や事務に移譲できる業務についても見直しが必要である。

2022年度研究科入学者選抜試験問題（社会人推薦入試第1次募集）出題意図
《医学系研究科 看護学専攻 博士前期課程》

[専門領域問題]

看護管理学コース

アドミッション・ポリシーに掲げた「専攻する分野の基礎知識を有していること、明確な問題意識を持ち、主体的に学習と研究に取り組める自律した人であること」を確認することを目的として、看護管理領域のリスクマネジメントに関する『インシデント・アクシデント』をテーマにした問題を作成した。

問1は、インシデント・アクシデントの発生回数に関連する要因に関する調査結果から、客観的事実を読み取る力を確認するための問題である。

問2は、テーマに対する受験者の看護管理における問題意識について、データの分析を踏まえた論理的な思考力を問う問題である。

I. 以下の文章を読み、問1～問7に答えなさい。

A子さん(34歳、保育士)とB夫さん(38歳、会社員)は結婚3年目の夫婦です。2人は妊娠を希望していましたが、なかなか妊娠しないため不妊の検査を受けてみようとお話し合っていました。

A子さんは、月経予定日を過ぎても月経が無かったため、自宅で市販の妊娠検査薬を使用して検査したところ陽性反応があり、産婦人科を受診しました。最終月経日を確認し、経膈超音波検査を行った結果、妊娠7週2日と診断されました。

妊娠25週3日、妊婦健康診査を受診しました。身長は156 cm、体重は59 kg(非妊時体重59.0 kg)、体重は64.5 kg、血圧122/80 mmHg、尿蛋白検査(-)、尿糖検査(+)、浮腫(-)でした。腹部超音波検査を行い、推定胎児体重700 g、胎児心拍数136回/分でした。Hb10.0 g/dL、Ht29%、75 gブドウ糖負荷試験の結果は、空腹時血糖98 mg/dl、1時間後血糖195 mg/dl、2時間後血糖150 mg/dlでした。「工作中、お腹が張って時々痛くなりますが、少し安静にしているとすぐにおさまります。夫も家事を、よく手伝ってくれるので助かっています。」

妊娠37週5日、妊婦健康診査を受診しました。

「最近、お腹がよく張ります」との訴えがあり、胎児の健康状態と腹部の緊満を観察するため、分娩監視装置を装着しました。レオポルド触診法を行い、胎児は頭位第2胎向でした。

A子さんは、39週6日で、出生体重3,000 gの男児を正常分娩で出生しました。出生直後、(1) 児に付着していた羊水をふき取り、(2) インファントラジアントウォーマーの下で観察を行いました。児の体温37.4℃、呼吸数58/分、心拍数151/分、呼吸音異常なし。看護師は観察を終え、(3) 温めておいたベビー服を着衣させ、同様に温めておいた寝具を用いて準備をしたコットに児を寝かせました。(4) コットは壁際や窓辺を避け、空調の排気口からの風が当たらない場所に配置しました。

問1. 不妊症の定義を記述しなさい。(5点)

定義：妊娠を望む健康な男女が避妊をしないで性交をしているにもかかわらず、1年間妊娠しないこと。

(平成27年8月29日日本産科婦人科学会)

問 2. 不妊症の原因について説明しなさい。(20 点)

- ・ 女性側の原因：(下記の中から 3 つ以上で 9 点)
 - ① 排卵因子 (排卵障害)
 - ② 卵管因子 (閉塞、狭窄、癒着)
 - ③ 子宮因子 (一部の子宮筋腫や子宮内膜ポリープなど)
 - ④ 頸管因子 (子宮頸管炎、子宮頸管からの粘液分泌異常など)、
 - ⑤ 免疫因子 (抗精子抗体など)。
- ・ 男性側の原因：(下記の中から 3 つ以上で 9 点)
 - ① 造精機能障害 (射精される精液の中の精子の数が少ない、もしくは運動率が低下している、その両方)、
 - ② 性機能障害 (勃起ができず挿入できない、勃起はするが射精がうまくいかない、その両方)
 - ③ 精路通過障害 (精子は作られているものの精子の通り道 (精路) のどこかが閉塞しているため精液中に精子がない)
- ・ 女性と男性の両方の原因が挙げられていること。(2 点)

問 3. 妊娠 7 週 2 日の妊婦と胎児の状態を説明した (1) ~ (5) の文章のうちで、正しいものを 2 つ選びなさい。(10 点=2×5 点)

- × (1) 経陰超音波法で胎児心拍動の確認と胎児心拍の聴取ができる
- (2) 胎盤組織が形成され始め、臍帯組織が発達しはじめる
- (3) 約 8 割の人が空腹時に、吐きけや嘔吐などのつわり症状が出始める
- × (4) 脳と脊髄以外のほぼすべての器官が完全に形成される
- × (5) この週数から胎芽が胎児とみなされる

問 4. 妊娠 25 週 3 日の妊婦健康診査時の A 子さんをアセスメントしなさい。(15 点)

- ・ BMI が 24.2 で、妊娠中の体重増加の目安は 10~13 kg のため、非妊時体重から 5.5 kg の体重増加で適正な体重増加である。
- ・ 空腹時血糖 (92) 1 時間値 (180) 2 時間値 (153) 空腹時と 1 時間値が診断基準を超えており、妊娠糖尿病である。
- ・ 妊娠性貧血がある。A 子さんは現在 25 週 3 日であり、妊娠後期に貧血が増悪する可能性がある。
- ・ 血圧と尿蛋白検査がマイナスであり、妊娠高血圧症 (HDP) ではない。
- ・ 胎児発育不全はない。正常に発育している
- ・ 仕事上の腹部緊満の訴えがあるが、安静で収まるため、切迫早産ではないが、工作上、切迫早産になるリスクが高い。

問5. 問4のアセスメントからA子さんに必要な援助について記述しなさい。(15点)

・妊娠糖尿病であるため、食事の確認と食事への保健指導が必要である。母親の血糖値をコントロールすること、胎児の成長に必要な栄養素を摂取することが指導のポイントとした指導を行う。食事の量や内容、食べる順番やスピードを調整し、血糖コントロールを行う。

- ・炭水化物の摂りすぎに注意し、副菜や野菜などバランスよく取るようにする。
- ・1日に必要なエネルギー量について知り、これを超えないようにする。
- ・食べる順番は野菜から食べるようにする。よく噛んで食べるようにする(30回目安)
- ・規則正しく3食摂る。
- ・甘い飲み物は避ける。

GDM以外の保健指導

- ・切迫早産予防の対処法と病院へ連絡してほしい徴候、腹緊時の休息の必要性等について説明する。
- ・妊娠後期にむけてのマイナートラブルや生活上の工夫点について説明する。
- ・母親学級の紹介を行う。

問6. 妊娠37週5日での胎児心拍モニタリングで異常所見はどれか。(5点)

- (1) 一過性頻脈
- × (2) 変動一過性徐脈
- (3) 10分に1回の子宮収縮
- (4) 胎児心拍数細変動
- (5) 胎児心拍数基線が135 bpm

問7. 出生直後に児の体温保持のために行った下線部(1)～(4)の援助は、体熱の喪失経路の「蒸散」、「対流」、「輻射」、「伝導」のどれか。

(5点×4=20点)

- (1) 児に付着した羊水をふき取ったこと
- (2) インファントラジアントウォーマーの下で観察を行ったこと
- (3) 温めたベビー服と寝具を用いたこと
- (4) 風が当たらない場所にコットを配置したこと

- (1) 蒸散(蒸散は皮膚や粘膜の水分の気化によって起こるため、羊水をふき取ったことは蒸散を防ぐことになる)
- (2) 輻射(観察をインファントラジアントウォーマーの下で行ったことは、周囲の環境との間で熱が移動する輻射を防ぐことになる。)

- (3) 伝導（温めたベビー服と寝具を用いたことは、児に直接触れるものの中で熱が移動する伝導に配慮した）
- (4) 対流（風が当たらない場所にコットを配置したことは、空気の流れて熱が移動する対流を防いだことになる）

II. 以下について説明しなさい。

1) プレコンセプションケア(Preconception care)の目的と具体的なケア（5点）

・Preconception care の定義：妊娠前の健康管理で将来の妊娠を考えながら女性やカップルが自分たちの生活や健康に向き合うこと

・Preconception care 目的：

- ①若い世代の健康を増進し、より質の高い生活を実現してもらうこと
- ②若い世代の男女が将来、より健康になること
- ③ ①の実現によって、より健全な妊娠・出産のチャンスを増やし、次世代の子どもたちをより健康にすることであり、改善可能なリスク因子に介入し、妊娠に関する正しい教育を提供することで、女性、妊娠時の妊婦・胎児、新生児への合併症・障害リスクを軽減すること。

・具体的なケア：

- ①適正体重を守る（18～49歳の女性の適正体重の範囲は、BMI 値で 18.5～24.9。やせ（18.5 未満）は低出生体重児等の要因になり、肥満は妊娠糖尿病や妊娠高血圧症候群等につながるため、妊娠前に体重をコントロールすることが大切）
- ②栄養バランスを整える・3食バランスよく食事を食べる（若い女性は、たんぱく質、カルシウム、食物繊維等が不足して、「低栄養」の傾向があるため、1日3食きちんと摂り、できるだけ栄養バランスが整うようにする。）
- ③適度な運動
- ④禁煙する・受動喫煙を避ける
- ⑤アルコールは控えめに
- ⑥ストレスを溜め込まない
- ⑦質の良い睡眠
- ⑧感染症の予防
- ⑨子宮癌健診の推奨、等

2) 加齢による妊孕性（妊娠能力）の変化（5点）

定義：妊孕性とは、妊娠するために必要な能力のこと。

加齢に伴う妊孕性の変化：女性は100～200万個の卵子を持って生まれてくるが、加齢に伴い徐々に数が減っていき、妊孕性は加齢により低下する。女性の妊孕性は20代のときが最も高く、30代で徐々に低下し、35歳を過ぎると急激に低下する。

助産学コース

(初潮を迎える頃には 30 万個、妊娠できる時期には 10～30 万個、37～38 歳で 2 万 5 千個以下になると卵胞数減少の加速期に入り、その後の十数年で 1000 個以下となり 50 歳前後で閉経となる)

- ・精子と異なり卵子は女性の生涯の間に決して新しく作られることはなく、この数は生涯減り続けていく。
- ・男性の妊孕性：男性は女性よりも長期にわたり妊孕性を維持するが、精子の質と数は年齢とともに低下する。